【227】

氏　名（本籍）	橋本暁子（茨城県）
学位の種類	博　士（理　学）
学位記番号	博甲第 6102 号
学位授与年月日	平成 24 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	生命環境科学研究科
学位論文題目	**A Geographical Study on Peddling Activities by Women in the Kyoto Area, Japan** （京都近郊地域における女性行商の地理学的研究）

主　査	筑波大学教授	理学博士	手塚　章
副　査	筑波大学教授	理学博士	田林　明
副　査	筑波大学教授	理学博士	山下清海
副　査	筑波大学教授	理学博士	村山祐司
副　査	筑波大学教授	Ph. D.	呉羽正昭

論文の内容の要旨

本研究では、明治期以降の京都近郊地域における女性行商の展開を、地理学的視点から考察した。女性が行商活動を行う場合、家族労働の一環として生産したものを比較的近距離にある都市部に販売する例が多く、行商活動が生産活動と分離しているわけではない。そのため、女性による行商活動を家族労働のなかに位置づけ、行商活動の経済的側面のみならず、社会的側面ならびに文化的側面にも着目することで、行商人の発生地域である京都近郊の地域条件を都市住民の生活との関わりのなかで捉えた。

京都近郊における行商活動については、公的機関による統計が整備されていない。本研究では、まず『愛宕郡村誌』および『葛野郡村誌』の分析から、明治期における京都近郊地域での行商品生産の分布および地域差を把握し、薪炭生産地域と野菜生産地域を見いだした。また、これらの行商発生地域が、京都市街地からほぼ20 km以内に位置することを明らかにした。これらの行商発生地域から2つの事例研究地区を選択し、過去および現在における行商活動の実態と家族内分業の形態に関して、行商従事者および行商経験者への聞き取り調査により資料を収集した。事例研究地区としては、薪炭生産地域から京都市左京区の八瀬・大原地区、野菜生産地域から京都市北区上賀茂地区を選択した。

八瀬・大原地区では、大規模土地所有者を除く世帯が、農閑余業あるいは農林業の補完収入源として柴・薪の生産および行商に従事した。行商品生産と行商による販売を並行して行っていたため、柴・薪の伐採や整形、行商など、いずれの作業においても夫婦による作業が基本で、一方が欠けると行商を中止する場合が多かった。昭和期においては、京都市街における燃料販売店の増加、戦時体制下における薪の配給制度、戦後におけるガスの急速な普及などにより、柴・薪の行商形態がしだいに変化し、1950 年代に需要がほぼ消滅したことにより、行商活動が衰退した。これに対して、野菜を主要な行商品とする上賀茂地区は、現在でも 50 戸以上の行商農家が存在しており、京都近郊における中心的な行商発生地域である。上賀茂地区では、明治期以降に野菜栽培が本格的に行われるようになり、重労働の農作業を男性が担当し、行商を女性が担当するという分業が定着した。その後、第 2 次世界大戦後には農業の機械化にともなって作業時間が短縮され、

栽培・行商品目の大幅な増加が見られた。また、運搬手段もリアカーから軽トラックへと転換し、行商活動が義母から嫁に引き継がれる形態が大半となった。運搬方法の変化にともなって、移動に要する時間が短縮され、行商吸収地域の範囲および形状に大きな変化が見られた。

これら2地区の分析を通じて、京都近郊地域における女性行商の基本的性格として、以下の諸点が明らかになった。女性行商に共通する性格は、行商品の生産と販売が並行して行われることで、生産と行商を家族内で分業する場合には、比較的軽作業である行商を女性が担当した。また、農林業から得られる収入を補完する上で、即時に現金収入が得られる行商活動は重要な意味をもっていた。遠隔地への大規模行商などとは異なり、これは都市近郊地域に見られる行商の共通的な発生要因といえる。行商活動が日帰りを基本としたことも、都市近郊地域の行商の共通点である。しかし、同じような日帰り行商であっても、歴史が浅く一時的であった東京近郊での行商活動に対して、京都近郊での行商活動では顧客との信頼関係を重視し、その関係を維持するために大きな努力がはらわれていた。このことが京都近郊における行商活動の継続性を支えてきた要因の一つと考えられる。

審査の結果の要旨

行商活動の担い手が女性であるのは、日帰りが可能な都市・近郊間の行商が大半であり、とくに京都は大原女や白川女など、伝統的に女性行商がさかんな地域として知られている。本研究は、こうした代表的地域を対象に、明治期から現在までの変化を視野におさめつつ、とくに第2次世界大戦後における女性行商の変化に焦点をあてて、地理学的な観点から分析・考察を加えたものである。本研究の特色は、行商従事者および行商経験者への詳細な聞き取り調査を通じて、女性による行商活動の変化や多様な行商活動の実態、さらにはそれらに共通する基本性格を明らかにしたことである。とりわけ京都市街での顧客動向や運搬手段の変化などにともなって、行商ルートや販売先地域が多様化・広域化したことを具体的に実証したことは、従来の行商研究にない新しい知見であり、特筆にあたいする成果といえる。女性行商については、これまで歴史学・民俗学分野の研究が多く、地理学分野からのアプローチに乏しかった。行商発生地域および行商吸収地域の地域特性や、行商ルートの変化などといった地理学的観点からの研究成果は、従来の行商研究に新しい知見を加えるものとして高く評価できる。

平成24年1月26日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもとに論文の審査及び最終試験を行い、本論文について著者に説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。